

奇才と呼ばれたオーソン・ウェルズが、弱冠 25 歳の若さで監督した処女作『市民ケーン』は、画期的な映画表現で制作した映画史に残る傑作です。

“ローズバット (ばらのつばみ) “という謎の言葉を残して、新聞王ケーンが亡くなった。ニュース映画の記者たちは、ケーンが残した言葉こそが彼を知る鍵になると考えて取材を進めます。ケーンと親交があった後見人や親友、後妻などの話から、富と権力を手に入れたケーンの孤独な姿があった…。

この作品は、当時の新聞界の大立者ランドルフ・ハーストをモデルにしています。そのためにランドルフから映画公開に圧力をかけられ、興行を失敗させるあの手この手が使われた過去がありました。そのことは今なおハリウッドの映画人にとって映画史の汚点だという思いがあります。また、ケーンの人生をパズル的に構成した配列の脚本の巧みさ、それをスクリーン全体に映し出すパン・フォーカスによる鮮明な撮影など、完成度の高さは他に類をみません。1987 年ハリウッド百年祭記念の世界映画ベスト・テンの第 1 位にも選ばれた映画史上の金字塔をお楽しみください。

市民ケーン

Citizen Kane



監督 オーソン・ウェルズ
脚本 ハーマン・J・マンキーウィッツ
オーソン・ウェルズ
製作 オーソン・ウェルズ
出演者 オーソン・ウェルズ
ジョゼフ・コットン
音楽 バーナード・ハーマン
撮影 グレグ・トーランド
編集 ロバート・ワイズ
製作 マーキュリー・プロダクション
配給 RKO
公開  1941 年 5 月 1 日
 1966 年 6 月 14 日
上映 119 分
製作国  アメリカ

9 月の映画会は…

「市民ケーン」

上映日：9月24日（土）

時間：午前10:00～（上映時間：119分）

会場：明野図書館 視聴覚室

どなたでもご覧いただけます。もちろん無料♪
お申込も不要です。

☆映画コンシェルジュによる解説が付きます☆